水稲の生育状況と今後の管理対策（第７号）

令和３年７月２７日
新潟県農林水産部

〔７月 26 日現在の県内全域の生育状況〕

◎　コシヒカリの葉色は、県平均で見ると指標値に比べ「やや淡い」ですが、地域差が大きく、「並」から「淡い」地域が認められます。
◎　新之助の葉色は、指標値に比べ「やや淡い」状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎　７月 22 日発表の１か月予報によると、８月６日までの期間前半の平均気温は、高い確率が 50％以上となっており、特に 31 日からの１週間は気温がかなり高くなる見通しです。
◎　コシヒカリでは、出穂前後から高温の影響が懸念されます。今後の気象情報や葉色の推移、幼穂の伸長状況などを確認しながら、高温気象を想定した追肥対応や、地域の用水計画に応じた水管理を適切に行う必要があります。

〔今後の管理対策のポイント〕

コシヒカリ

◎　分施体系で２回目の穂肥[*1]を施用していないほ場では、必ず施用してください。
◎　葉色の推移に注意し、葉色の低下が大きい場合には、地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考に、出穂期の３日前までに追加（３回目相当）の穂肥を施用してください。
◎　有機質 100％肥料を穂肥に利用する場合は、肥料の特性を確認した上で、化学肥料よりも早めに施用してください。
◎　出穂期 25 日後まで飽水管理[*2]を継続し、根の活力維持を図ってください。

新　之　助

◎　出穂期 25 日後まで飽水管理を継続し、根の活力維持を図ってください。
◎　分施体系のほ場では、出穂期 12～10 日前の２回目の穂肥施用時に葉色を確認し、地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考に、葉色に応じて施肥量を調節して、適正な出穂期の葉色に誘導してください。
◎　全量基肥施肥[*3]のほ場で出穂期の葉色が確保できず、栄養凋落が予想される場合には、ほ場条件等を十分に考慮した上で、追肥を検討してください。
◎　生育期間が長いため、ほ場を良く観察し、いもち病に加え、紋枯病の発生にも十分注意して、発病を認めた場合は遅れずに薬剤防除を行ってください。

***1 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること**
***2 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと**
***3 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと**

早生品種

◎　登熟期間中の高温に対応するため、出穂期 25 日後まで飽水管理を継続して根の活力を維持し、登熟後期まで栄養状態を確保して、令和２年産以上の高品質を目指しましょう。

◎　品種ごとに出穂期を確認し、斑点米カメムシ類の適期防除を徹底してください。特に、ゆきん子舞などの割れ籾が発生しやすい品種では、斑点米被害のリスクが高いため、出穂状況を確認しながら、適期を逃さず、確実に防除を実施してください。

◎　多肥栽培では、いもち病の発生に注意し、穂いもちの予防防除を適切に行ってください。

熱　中　症　予　防

◎　気象台の長期予報や直近の週間天気予報、２週間気温予報では、７月 30 日頃から８月はじめにかけて、最高気温が 36～38℃にも達するような猛暑が予想されています。

◎　草刈りや除草剤散布、穂肥施用など、屋外での農作業時には、あらかじめ飲料水や日陰を十分に確保しておくなどの熱中症予防対策を必ず行い、健康管理に十分注意するとともに、気温の高い時間帯での作業を避けたり、頻繁に休憩を取るなど、農作業の安全対策にも十分配慮してください。

◎　特に、「熱中症警戒アラート」が発表されている日は、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境になると予想されますので、熱中症の予防行動を積極的にとってください。

フェーン発生時の対応

◎　県からのフェーン緊急情報に注意し、フェーンの発生に備えて、地域の用水計画に応じた水管理の準備を進めてください。

◎　今後の管理対策発信予定日　７月 30 日、８月 20 日、９月 10 日

〔補足資料〕

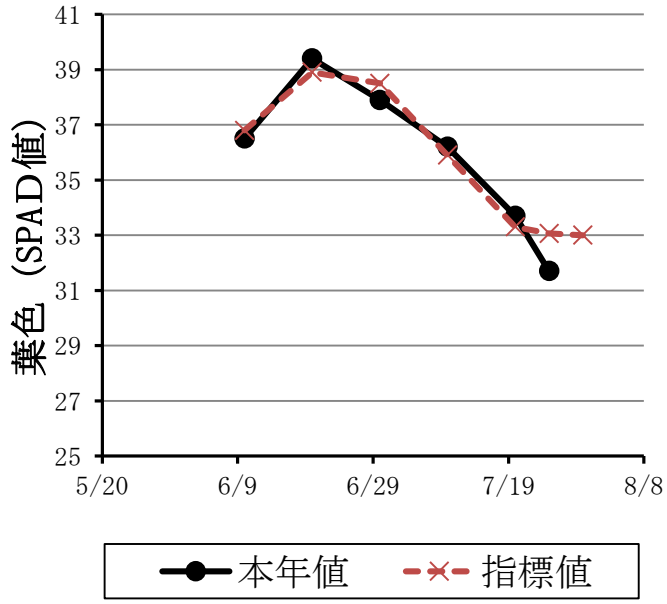
1　農業普及指導センター及び作物研究センターにおける生育状況（7月26日現在）

コシヒカリ

○　葉色は指標値「やや淡い」状況ですが、地域差が大きく、「並」から「淡い」地域が認められます。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD値)	31.7	33.1	やや淡い	-1.4

注）県内全域の115生育調査ほデータの平均値（田植え5月10日、栽植密度16.9株/㎡）



コシヒカリの葉色推移（県全体）

生育調査ほにおけるコシヒカリの幼穂形成期の生育

地域	幼穂形成期(月/日)			草丈（cm）			茎数（本/㎡）			葉色（SPAD値）		
	本年	平年差	前年差	本年	指標比(%)	前年比(%)	本年	指標比(%)	前年比(%)	本年	指標差	前年差
下越	7/14	-2	-2	68	96	96	378	91	94	32.7	-1.6	-1.3
新潟	7/15	1	0	74	104	103	459	108	116	35.8	1.5	-0.9
中越	7/14	0	1	71	101	96	423	98	102	35.9	1.8	-1.4
魚沼	7/14	0	3	67	94	97	486	110	98	34.7	-0.4	-1.5
上越	7/11	-1	2	70	96	103	499	109	107	34.7	0.5	-1.2
佐渡	7/16	0	-1	78	109	97	565	126	99	37.1	3.1	-4.8
県全体	7/14	0	1	71	100	99	462	106	104	35.0	0.6	-1.5

注）県内全域の15生育調査ほデータの平均値（田植え5月12日、栽植密度17.0株/㎡）、平年値はH23～R2年までの10か年の平均

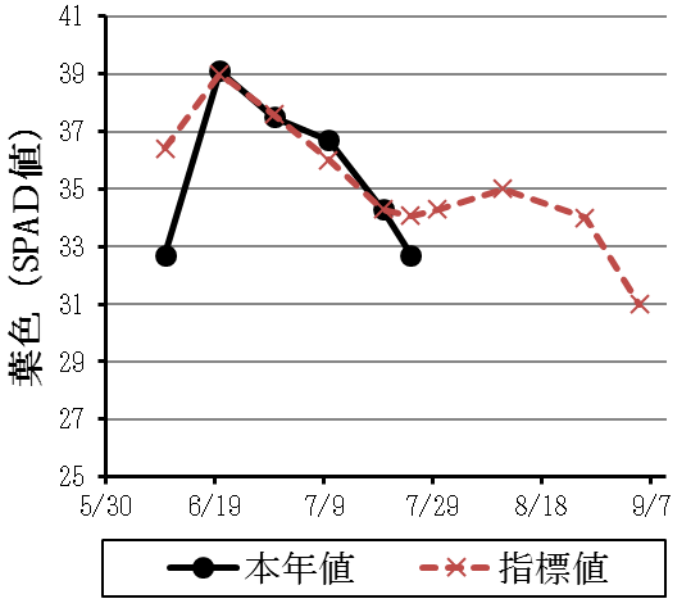
◎　指標値に比べ、幼穂形成期の草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉色は「やや淡い」の状況でした。

新　之　助

○　葉色は指標値と比べ「やや淡い」状況です。ただし、地域別で見ると「やや濃い」から「淡い」と地域差が大きく、「淡い」地域は４割と多い状況となっています。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD 値)	32.7	34.1	やや淡い	-1.4

注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 18 日、栽植密度 16.0 株/㎡）



新之助の葉色推移（県全体）

生育調査ほにおける新之助の幼穂形成期の生育

地域	幼穂形成期(月日)			草丈（cm）			茎数（本/㎡）			葉色（SPAD 値）		
	本年	平年差	前年差	本年	指標比(%)	前年比(%)	本年	指標比(%)	前年比(%)	本年	指標差	前年差
下越	7/21	-1	-1	71	114	106	428	81	100	31.4	-2.6	-3.3
新潟	7/21	0	-1	71	110	101	516	96	98	35.0	1.0	-4.0
中越	7/20	2	0	73	115	109	481	94	102	34.9	0.6	-1.5
魚沼	7/22	2	2	71	104	104	527	98	98	33.0	-2.0	-2.8
上越	7/18	1	1	67	104	103	592	110	98	34.8	0.8	-0.1
佐渡	7/25	2	1	73	112	89	458	83	80	31.7	-2.8	-10.1
県全体	7/21	1	1	71	109	103	511	96	97	34.1	-0.2	-2.8

注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 17 日、栽植密度 16.0 株/㎡）、平年値は H28～R2 年までの５か年の平均

◎　指標値に比べ、幼穂形成期の草丈は「やや長く」、茎数及び葉色は「並」の状況でした。

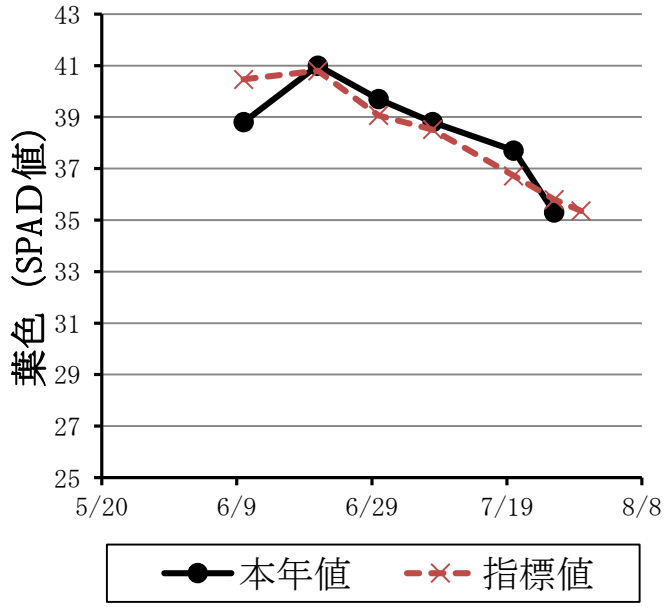
◎　幼穂形成期から判断すると、出穂期は平年より２日遅い８月 13 日ごろと見込まれます。

こしいぶき　**（参考）**

○　**指標値に比べ、葉色は「並」の状況です。**

項目	**本年値**	指標値	指標値 との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD 値)	**35.3**	35.8	並	-0.5

注１）化学肥料栽培　田植え５月 10 日、栽植密度は 20.7 株/㎡、幼穂形成期７月８日（平年差＋２）
注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a、穂肥窒素成分量　1.0＋1.0kg/10a(1 回目：7/6、2 回目：7/15)
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



こしいぶきの葉色推移

こしいぶきの幼穂形成期

	本年値	前年差	平年差
幼穂形成期	７月８日	＋２日	＋２日
出穂期	７月 27 日見込み	＋１日	－１日

注１）化学肥料栽培　田植え５月 10 日、栽植密度は 20.7 株/㎡、幼穂形成期７月８日（平年差＋２）
注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a、穂肥窒素成分量　1.0＋1.0kg/10a(1 回目：7/6、2 回目：7/15)
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

◎　**高温のため幼穂伸長期間が短縮され、出穂期は平年より１日早い７月 27 日の予想です。**